

## コマツナにおける土壌病害の実態解明と栽培環境に対応した管理技術の構築

### 【研究概要】

近年、コマツナの主要産地の江東地域において、様々な生育不良が発生し問題となっている。昨年度までの先行調査において、これら障害の一部は土壌病原菌が関与する病害であることが判明している。そこで本病害の発生状況や関与する病原菌の生理、生態等を明らかにするとともに、各種防除法を検討し、発生実態や栽培環境に対応した管理技術を構築することを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の5つの成果が得られた。

- (1) ①生育不良、②根の褐変および脱落、③株腐れや地際部の水浸状腐敗などが観察され、それぞれ異なる *Fusarium* 属菌に類似した菌叢の病原菌が分離された。
- (2) 分離された *Fusarium* 属様関連菌類は、分子系統解析の結果、萎黄病菌や未記載種を含む計4種に同定された。
- (3) 分離4菌種をコマツナに接種し 25 および 35°C 下で管理したところ、萎黄病菌は両温度帯で病原性を示したが、他3種は 25°C では発病せず、35°C で病原性を示した。
- (4) 尻腐れ症状の原因である *Rhizoctonia solani* について農総研保存菌株について調査したところ、10～2月は AG-2-1、7～9月は AG-4 が分離される。
- (5) コマツナリゾクソニア病の登録農薬について防除試験を行ったところ、夏季のコマツナ栽培ではリゾレックス粉剤の 40 kg/10a 播種前土壌混和処理が播種 42 日後まで高い防除効果を示す。